

紙芝居、人形劇、影絵などいろいろな劇がありますが、ブラックパネルシアターというものを初めて知りました。

掛川市立図書館の図書館祭りで取材させていただきました。

普通に紙芝居などやるような会場ですが、窓をカーテンで囲っているところが違います。



DSC00434



DSC00433

ブラックシアターの始まりです。急に暗くなって、お母さんに思わずしがみつく子ども。でもお話が始まり、人物や家が美しい姿で浮かび上がると子供たちが集中するのが闇の中でも感じ取れました。

暗い中で、映し出される絵は夢の世界に入り込んだようで、謎めいてもいます。



DSC00452



DSC00457

いろいろな場面があったのですが、真っ暗な中で撮影するので、あまりたくさん撮れなかったのが残念です。



DSC00463



DSC00498

お話の合間には部屋を明るくしてハンドベルを使って「荒城の月」など童謡を歌いました。お話ばかりでは子供たちが飽きてしまうので、明るくして休憩タイムとしてやっていますが、練習がなかなかできないので緊張するそうです。



[DSC00480](#)

これを主催する「ポラリス」代表の湯浅幸子さん(写真向かって右側)にお話を聞きました。

15年前、仕事関係でブラックシアターを知りました。ブラックシアターの今までにない動きと変化に驚き感動したそうです。

仕事を定年退職した後、浜松にしかないブラックシアターの先生のところまで研修に出かけて勉強されました。

平成20年3月掛川市の市民大学で知り合った仲間2人で立ち上げました。21年4月、掛川氏の活動推進モデル委託事業として認められ、20万円を獲得し、メンバーも7人に増え、活動が定期的に行えるようになりました。

主に図書館のイベントを中心に、子育てサロン、高齢者サロンなどからも依頼があります。今年初めて、特別支援施設でも行いました。

舞台装置や人形などすべて手作りだそうです。



[DSC00512](#)

黒板の前の普通の蛍光灯のようなライトが特別で、美しくみせてくれるそうです。



[DSC00517](#)



[DSC00524](#)

とても若々しい皆さんですが、60代以上の方がほとんど。セリフを完全に暗記しなければいけないのがツライと笑っておられました。

表現力はこれでいいというものではなく、やればやるほど奥深さを感じ練習に励んでいます。

表現する楽しさがあり、お話を作ったり演じたりする仲間を持っていることが続けられる秘訣とのことでした。

真っ暗な世界で美しく照らし出されるお話の世界を、会の名前ポラリス(北極星)のようにいつまでも輝かせて行ってほしいです。

小笠・榛南地区生きがい特派員 荒木弘子